

---

# 全日本フォークジャンボリーはどのように作られたのか

## ——FJ 実行委員、小池とし子日記を探る

東谷護 愛知県立芸術大学音楽学部教授（音楽学）

---

### はじめに

本稿は、全日本フォークジャンボリー（1969-1971年に3回開催）の実行委員だった小池とし子（旧姓、現在は原とし子）氏の当時の日記から、全日本フォークジャンボリーがどのように準備され、開催に至ったかを実行委員会、作業日、当日、反省会等の記述を中心に抜粋した資料論文である。

ある出来事に対してメディアのなかの言説と個人史のなかでの捉え方に差違が生じることがある。この差違が生じる原因を、多数と少数によるものと片付けるわけにはいかない。メディアが積極的に取り上げなかった事実に対して、個人史に着目することで、一般化される傾向にあるメディアのなかの言説との「ズレ」を確認し、新たに過去の事実を掘り起こすことも出来れば、「ズレ」に対して、なぜそのようなことが生じたかを読み取ることによって、新たな解釈を提示することも出来る。

日本におけるフォークソングは、1950年代後半にアメリカから受容したが、そのスタート時点から矛盾をかかえた。矛盾とは、アメリカでは民謡からフォークリバイバルを経てフォークソングが生まれたのに対して、日本ではこうした歴史的経緯を意識せずフォークソングのスタイルだけを受容し大きく発展させた。日本のフォークソングに関するテレビ、新聞や音楽雑誌による言説の主たるものの概要をあらわすと、フォークソングはアメリカから受容され、広く人々に認識されるのは1960年代後半であり、反体制や学生運動といったイデオロギー色の強いものと結びつけられ、学生運動の季節が色褪せると、吉田拓郎（1946-）、井上陽水（1948-）といった新しい時代のスターの登場とシンガーソングライターの台頭によって、日本のポピュラー音楽に大きな影響を与えた。全日本フォークジャンボリー開催は、フォークソングが反体制というイデオロギーと結びついたものから新たなスターの登場、ジャンルとしての一般的な認知度が高まる転換点となった、ということになる。

全日本フォークジャンボリーは、日本の野外フェスティバルの黎明期のものとされる。この野外フェスティバルは3回目の1971年にはテレビ中継や各種メディアの取材が介入するほど巨大化（観客動員数が約25,000人）し、反商業主義を唱える若者にステージを占拠され、イベント開催中に中止に追い込まれてしまう。この3回目のみがクローズアップされ、日本のポピュラー音楽史にとどまらず、1970年代前半の若者文化を語る際に欠かすことが出来ない出来事として刻まれている。

しかしながら、全日本フォークジャンボリーがどのように企画され、具体的にどのように準備や作業がなされ、当日運営されたのかについては不明な点多すぎる。当時、刊行された音楽雑誌で、企画制作が地元の若者だったという点は言及されても、具体的なことについてはほとんど言及されていない。本稿を執筆している私は、こうした不明点について、当時の一次資料の発掘を進めてきたなかで、全日本フォークジャンボリー実行委員だった小池とし子の日記の存在を教えていただいた。この日記に書かれた記述について本人と当時の実行委員だった複数名とで、資料批判的な検討と、実行委員会の軌跡を振り返りながら日記の抜粋を行った。この日記の抜粋を全日本フォークジャンボリーの内実を示す基礎資料として広く公開することが本稿の目的である。

以下、全日本フォークジャンボリーを概観(1)し、日記抜粋に至った経緯(2)、抜粋の方法(3)、小池とし子が実行委員になった経緯(4)、これらを示した上で、学術的価値に言及したい(5)。最後に「小池とし子日記」の抜粋を提示する(資料1)。

## 1. 全日本フォークジャンボリーの概観<sup>1</sup>

全日本フォークジャンボリーは、1969、70、71年に、岐阜県中津川市に近い恵那郡坂下町（開催当時。現在は中津川市坂下）の<sup>はな</sup>椈の湖畔を会場として3回開催された。中津川は名古屋から約80kmの位置にあり、JR中央本線の快速電車で1時間半弱である。坂下は、中津川から長野県境に向かって2駅目であり、普通電車で約10分、距離にして約10kmである。なお、中津川は岐阜県では東濃と呼ばれる地域である。

以下に全日本フォークジャンボリーに関する基礎的なデータを提示し、それ

ぞれ着目すべき点について指摘したい。

先ず、開催日時と観客動員数の推移（図1）を見てみたい。

	開催日	観客動員数
第1回	1969年8月9日（土）～10日（日）	約3,000人
第2回	1970年8月7日（土）～8日（日）	約8,000人
第3回	1971年8月7日（土）～9日（月）	約25,000人

図1 開催日時と観客動員の推移

第1回と第2回は2日間、第3回は3日間の開催であった。第1回は夕方開演、第2回と第3回は午後開演で、3回すべてオールナイト形式のコンサートだった。なお、第3回目は2日目の深夜から正午過ぎまでを自由時間として、ステージ演奏のないスケジュールになっていた。野外コンサートで、しかもオールナイトという形式は、当時としては異例であり、その後のシンガーソングライター系の野外コンサート等に影響を与えたといえよう。

注目すべき点は、回を重ねるたびに観客動員数が増えたことである。会場となった椈の湖は、山間にあり、最寄り駅の坂下からはバスで10分ほど、徒歩だと坂道をかなり上るため1時間弱はかかる。首都圏と違って1970年前後の中津川は交通の便の悪い地方だったといっても過言ではない。さらに坂下町の人口は当時、6000人<sup>2</sup>であったので、第2回ですでに町の人口を超え、第3回には人口の約4倍もの観客が訪れたことになる。なお、観客動員数は第1回についてはチケットの半券を数えたため正確な数の把握が出来たものの、第2回と第3回については、主催者側が正確な数を把握することが出来ていない<sup>3</sup>。

次に、出演者についてだが、多彩なプロ歌手に加え、アマチュアも参加できた。主な出演者は図2（次頁）の通りである。これらの出演者を見てわかるように、フォークソング以外のジャンルの歌手も出演するなど、その多様性をみてとることが出来る。また、アマチュアの出演者のなかには、加川良（1947-2017）、なぎら健壺（1952-）のようにフォークジャンボリーのステージに立つことによって注目を浴び、その後プロとして活動する者がいたなど、プロへの登竜門としての面があったともいえよう。フォークジャンボリー事務局が作成した、アマチュア向けの「出演要領」（第1回、1969年用）の第5条には「演奏曲数

高石ともや (1)、岡林信康 (1,2,3)、高田渡 (1,2,3)、五つの赤い風船 (1,2)  
 ジャックス (1)、上條恒彦 (1)、田楽座 (1,2)、遠藤賢司 (1,2,3)  
 岩井宏 (1,2,3)、中川五郎 (1,3)、斉藤哲夫 (2,3)、六文銭 (2)、赤い鳥 (2)  
 浅川マキ (2,3)、加川良 (2,3)、チェコスロバキア スルク大舞踏合唱団 (2)  
 はしだのりひこ (2,3)、シバ (2,3)、杉田二郎 (2)、はっぴいえんど (2,3)  
 山本コータロー (2,3)、なぎらけんいち (2,3)、ガロ (3)  
 カルメン・マキ (3)、五輪真弓 (3)、吉田拓郎 (3)、かまやつひろし (3)  
 友部正人 (3)、長谷川きよし (3)、ミッキー・カーチス (3)、安田南 (3)  
 日野皓正 (3)、あがた森魚 (3)、三上寛 (3)

図2 主な出演者：( ) 内の数字は出演した開催回

時間は3曲10分を制限とします。」と記してあり<sup>4</sup>、第1回開催当日は、高石ともやの司会で、アマチュアが何組かステージで自作曲を披露している。

最後に指摘したいのは、全日本フォークジャンボリーが地元のボランティアによる手作りイベントだった、ということである。全日本フォークジャンボリーの主催者は、地元の若者による実行委員会であった。この実行委員会の基盤となったのは中津川労音である。中津川労音は、労音という大きな組織の支部ではあったが、中津川労音のメンバーを中心とした自主的な活動であったことに鑑みれば、実質的には地元有志を中心としたボランティアによる手作りイベントだった。会場探しから始まり、会場の整備、設営、出演交渉、広報などの準備、当日の運営など、ありとあらゆることまで、地元の青年たちのボランティアの手によるものだった。

## 2. 小池とし子日記の抜粋に至った経緯

筆者は、1992年に初めて中津川にて現地調査を行ってから、1994年、2008年～2013年そして2019年と、断続的だが中津川にて現地調査を行ってきた。少ない年には年1回、多い年にはほぼ月1回、中津川に足を運んできたが、これらの成果の一部として、2021年3月末に、中津川労音機関誌の復刻に加えて解題と拙論を収録し、東谷護（編著）『復刻 資料「中津川労音」－1960年代における地域の文化実践の足跡を辿る－』（風媒社）を上梓した。

この出版を機に、それまでに話を伺えていなかった全日本フォークジャンボ

リー実行委員の田中鉦三さん（1942 年生まれ、当時・左官業）、安保洋勝さん（1938 年生まれ、当時・濃飛バス運転手）に当時の状況や中津川労音のことなどを教えていただく機会を 2021 年 8 月に得た。これに加えて、実行委員だった方々を紹介していただき、月 1 回のペースで中津川に通って、様々な話を伺った。その流れのなかで全日本フォークジャンボリー第 3 回の 2 日目夜に起こったステージ占拠は実際にはどうだったのかという話題になったときに、松井隆康さん（1942 年生まれ、当時・恵那信用金庫職員）から、全日本フォークジャンボリー当時に丁寧に日記をつけていた原とし子さん（1949 年生まれ、当時・会社員）の日記に書かれているかもしれないということを教えていただき、原とし子さんを紹介していただいた。

2022 年 5 月 24 日に、原とし子さんに話を伺う機会を得た。この折りに、原さんからフォークジャンボリー以外のプライベートなことも書いているので、日記そのものをすべて見せることは出来ないということだった。そこで、全日本フォークジャンボリー実行委員会が開催された日や全日本フォークジャンボリー開催当日、準備や後片付け等、全日本フォークジャンボリーに関わる日の記述のみ、教えていただくこととなった。この約束のあとに、原さんに複数の日時の記述を読み上げてもらったところ、書かれていた内容が個人の感想にとどまらない、むしろ記録的な要素が多い日記であることが判明し、学術的な資料価値が高いと思われたため、すべてを読み上げてもらい、それらを抜粋し活字化することとした。

### 3. 小池とし子日記抜粋の方法

全日本フォークジャンボリー実行委員だった人たちの保存していた当時の写真、会場にたてた幟、入場券、ペンダントをはじめとして、開催後に発売されたレコード、音楽雑誌、書籍、これらを含む全日本フォークジャンボリーに関わるものを一カ所に集め、展示をして見学できる施設として、フォークジャンボリー記念館（岐阜県中津川市坂下）が 2015 年 4 月 18 日に開館された。このフォークジャンボリー記念館には未整理の当時の資料も保存されている。2021 年 8 月から、科研費プロジェクトで筆者の東谷護と山田晴通氏が来訪して、当時、実行委員だった方々に話をうかがっていくなかで、フォークジャンボリー

記念館の鍵の開け閉めとフォークジャンボリー開催当時の様々なエピソードを話して下さった早川和子さん（1952年生まれ、当時・高校生）が未整理資料のなかから「全日 FJ 実行委員会日誌」を見つけた。この日誌は、実行委員会の開催日と作業日等を箇条書きに記しただけの簡単なものであった。

原さんは全日本フォークジャンボリー開催当時は旧姓で小池とし子であったため、抜粋し活字化する日記は「小池とし子日記」と称することにしたい。小池とし子日記は B5 版の大学ノートで、その日にあったこと、感じたことを、その日のうちに記したとのことである。なお、日記は縦書きで記されている。

抜粋作業の方法は以下のように行った。

1. 筆者の東谷護が「全日 FJ 実行委員会日誌」に記されている日時を読み上げ、原さんが当該日時の日記に書かれている文章を一字一句、読みあげた。適宜、確認の質問等を行った。
2. 日記の抜粋に立ち会った人から、日記を読んだ日時の当時の思い出話や関連することなど、思いついたことは遠慮なく、発言してもらった。内容によっては、日記の抜粋を一旦、停止して、その場にいる人たちで座談会風に喋ってもらった。
3. 上記 1 と 2 の繰り返しをその日の終了時間がくるまで行った。
4. 録音を全てとっているため、次回までに東谷が活字おこしたのから日記の抜粋箇所のみを箇条書きにした。これらを印字して、日記を書かれた原とし子さんに渡した。
5. 原とし子さんが自宅にてチェックし、間違いがあれば修正した。
6. ほぼ 1 ヶ月後に、抜粋作業を再開したので、その折りに原さんが東谷に校正紙を渡した。
7. 上記 6 までで日記の抜粋が限りなく完了に近づいたが、日記内に人名のあだ名があったため、複数名による場であだ名の人名を確定した。これは、2023 年 1 月 23 日に行った。
8. 上記を終えた日記抜粋の最終校正を原とし子さんにしてもらい、確定版を本稿の資料として掲載した。なお、現物が縦書きのところを横書きにしたことや一部の表記を修正したことについては、資料の冒頭で凡例として示した。

以上に記したが、小池とし子日記の抜粋に立ち会ったのは、原とし子さん、安保洋勝さん、松井隆康さん、早川和子さん、そして科研費の共同研究を行っている研究代表者の山田晴通氏と筆者の東谷護の6名である。

日記の抜粋作業を行ったのは以下の日時である。

2022年5月24日(火)、6月20日(月)、7月29日(金)、8月22日(月)、9月26日(月)、2023年1月23日(月)。なお、時間は全日13時30分～17時で、場所はフォークジャンボリー記念館である。

#### 4. 小池とし子はどのように全日本フォークジャンボリー実行委員となったのか

先述したように、全日本フォークジャンボリーは中津川労音の有志が実行委員会を立ち上げ、企画制作を行った。これを念頭におくと、小池としさんは第1回全日本フォークジャンボリーの実行委員会の初回から参加していることから、小池は中津川労音に関わっていたことがわかる。小池としさんは、いかにして全日本フォークジャンボリー実行委員となったのであろうか。以下に前節で言及した日記抜粋の方法によって得られた情報を示す<sup>5</sup>。

1967年8月19～20日に、小池は勤務先の会社の仲間に誘われてキャンプに行き、そこで知り合った人たちに、働く人たちが歌を歌ったり悩み相談をしあったりするサークル「オンチの会」を紹介され、翌9月14日に「オンチの会」に入会したのが中津川労音に関わるきっかけとなった。この「オンチの会」で3日後の9月17日に中津川労音の人と仲間になったのである。

労音の例会に小池が初めて参加したのは、1967年11月10日に坂下小学校講堂で開かれた地域例会で、高石友也とぜんまい座の公演だった。この例会で安保洋勝と知り合いになる。この日の日記には「素敵な声だった」と記されている。この例会参加を皮切りに、「寺内タケシとパニーズ」(1967年11月10日、中津川、会場不明)、「高石友也とベトナム反戦の夕べ」(1968年2月24日、中津川農協3Fホール)、「森山良子、B&B7」(1968年3月15日、中津川市立東小学校講堂)に参加した。

労音に積極的にコミットし始めたのは、地域例会として開催された「高石友也・岡林信康コンサート」(1968年11月13日、坂下小学校)からである。小池はこのコンサートの実行委員会(1968年11月8日)に参加する。コンサート当日に

は、公演後の交流会にも参加した。コンサートの日の日記には以下のように記されている。

今日は、待ちに待った、高石ともやさんと岡林信康さんの坂下公演。いいねえ。高石さんは、とっつきやすく、気さくで、話しかけると、何でも答えてくれて、いばっているところなんか全然ない。岡林さんのほうは、ツンとしているみたいだけど、話をし出すと、面白いことを言う人だ。昨年より良かった。毎年来てくれるといいなあ。公演終わって、島平二の公会堂で、二人を囲んでの交流会をした。

中津川労音に限らず、労音の特色の一つとして、公演後に出演者との交流会や合評会があった。このコンサートの反省会がほぼ1週間後の11月21日に開かれる。そのときの模様を以下のように記している。

高石ともやの反省会。ともやの実行委員会に出て、大変勉強になった。安保さん、良いことを言ってくれた。このまま、みんなと別れたくない。また集まって、いろいろな計画を立てようと言ってくれた。私も、せっかく、みんなと友達みたいになれたから、いいことだと思う。同じ坂下に住んでいる人たちばかりだから、これからもどんどん出よう。自分のためになることだから。

この日記の記述にあることが現実のものとなったのは、翌1969年3月6日以降で、原とし子は、「この日から色々な取り組みがあるたびに実行委員会にさそわれるようになった」と回想した。具体的には、「上條恒彦リサイタル」での受付係（1969年4月12日、坂下小学校）、映画『橋のない川』（1969年4月30日、坂下、会場不明）での受付をしたことである。

このような経緯で、第1回全日本フォークジャンボリー実行委員会（1969年6月13日、坂下公民館）に参加することとなったのである。なお、実行委員会開催の知らせは、開催日が近くなるとハガキによって全日本フォークジャンボリー事務局から伝えられてきた。

## 5. 小池とし子日記の学術的価値

全日本フォークジャンボリーは「伝説の」という冠がつくことが多いように見受けられる。このような冠をつけるのはメディア側の言説であり、とりわけ規模が大きかった1971年に開催された第3回にのみ、スポットがあてられることが多い。

会場の椈の湖を知っていたのは、地元の人ぐらいだったといっても過言ではないだろう。開催当時の1970年前後では、地方、いや田舎といった方がよいだろう。地方の時代という言葉とはほど遠い頃の話である。さらに、オールナイト形式の野外フェスティバルが珍しかった頃に、出演者も観客も他のイベント以上に集まったとなれば、開催した事実と表層だけを追った記事が新聞なり音楽雑誌なりに掲載されるのは当然であろう。先述したように一部の雑誌に地元の若者を中心にした手作りコンサートだったという記述がなされた<sup>6</sup>が、それを読んでも、どのような準備がいつなされたのかなどの詳細は、わからない。

「小池とし子日記」は、全日本フォークジャンボリーの内実を明らかにするものである。小池日記の存在は日記を書いた本人もしばらく忘れていたということも加わって、当時の実行委員でも、日記をつけていたことを知っていた者は極めて少なく、ここまで詳細なことがわかる日記だということを知っていた人はいなかった。

「小池とし子日記」は半世紀前の日本の、地方に住む若者が、日本のポピュラー音楽史に残る音楽イベントに裏方として、どのように関わったのかはもちろんのこと、イベントがどのように準備されたのかがわかる貴重な記録である。しかも、イベント会社が主催したものではなく、一地方の若者が主催した手作りイベントであった点は着目すべきである。今日的な地域や地方でのアートによる町おこし的なものの先駆けとしてみるならば、運営方法にとどまらず、コミュニティとの関係性を検討するヒントにも成り得るだろう。さらに、1970年代前後の地方の若者、「名もなき人たち」の文化実践の一端を垣間見ることが出来よう。当時の様々な文化実践に関わる他の一次資料と比較すれば、これまで見えなかったものが見えてくるであろう。その可能性を「小池とし子日記」は内包しているといえよう。

## 資料1 「小池とし子日記」の抜粋

### 凡例

1. 資料1は、フォークジャンボリー実行委員会による実行委員会関連の開催日時と簡単な内容を記した「全日FJ実行委員会日誌」に、小池とし子（旧姓、現在は原とし子）氏の日記に書かれている内容を記したものである。
2. 日付の後の小見出しは、「全日FJ実行委員会日誌」に記されているものである。なお場所等については（ ）で東谷が付加した。
3. 現物は縦書きで、句読点は「.」を使用しているが、資料1では横書き、句読点は「,」「。」に置き換えた。
4. 日付の後に記されている\*は、全日本フォークジャンボリーに関わる内容で小池日記にのみ記されているものである。
5. 日記本文中の人名のニックネーム等の直後に（=氏名）を付加した。
6. 日記が長文のものについては内容や時系列に応じて改行した。また明らかな誤字等は修正した。これらは日記の整理と活字化を行った東谷護によるものである。

### 1969年

#### 6月13日（金）：第1回FJ（フォークジャンボリー）実行委員会（坂下公民館〔於：坂下町〕）

二十歳の次の日が、第一回目の実行委員会でした。8時頃から集まりだし、半頃から本格的に取り組み始めた。ものすごくスケールのでかいことをやるんだと思ったものでした。

#### 6月15日（日）：椈の湖調査（椈の湖）

2時から、椈の湖へ、フォークジャンボリーの下見に行ってみる。こんな所でどうやってやるんやと思ったのにみんなは、ここをステージ、ここを客席、ここらへんはテントをはると良いなんて、色々計画してみたけど、まだ、地ならしがしてないから、実感がわかなんだ。

#### 6月24日（火）：第2回FJ実行委員会（坂下公民館）

ほんとに大風呂敷になりそう。大勢集まった。工事も、今月中に取りかかるそうだから、8月が楽しみだわ。早く来い来い8月よ。

**7月3日(木)：第3回 FJ 実行委員会 (坂下公民館)**

だんだん具体的になってきた。

**7月6日(日)：作業始め(椈の湖)**

11時頃から、椅子作りや看板作り、6時半頃迄やって来た。

**7月11日(金)：第4回 FJ 実行委員会 (坂下公民館)**

青年会の盆踊り講習会と実行委員会と重なってしまった。盆踊りの方へ行った。

**7月18日(金)：第5回 FJ 実行委員会 (坂下公民館)**

着々と工事が進み、準備完了近し。予約もたくさん集まり、待ち遠しい。もう一息だから頑張ろう。

**7月20日(日)：作業(椈の湖)**

8時半頃、坂下駅に集まって、椈の湖へ行って昼食作り。カレーを作って、こぼしちゃったり、おにぎりを握ったり。カレー、私達の間、あらへん。2時から作業、土手の草刈り。

**7月21日(月)：FJ(実)、商工会、青連協合同会議**

\*記述なし

**7月25日(金)：第6回 FJ 実行委員会 (坂下公民館)**

欠席

**7月27日(日)：作業(椈の湖)**

\*記述なし

**8月3日(日)：作業(椈の湖)**

8時半、駅前集合。椈の湖へ、整地作業に行って、家を一軒貸してもらったから、そこの掃除。草刈り、食事係、いろいろやることばっかし。

もう一週間もないのだから、急ピッチを上げなければ。ステージの方はどうにか出来たけど、客席の整地が全々出来ていない。砂を入れるとよけいびちよびちよになってしまう。水たまりが出来てるから、中津の人達も頑張っているのだから、私達も頑張ろう。

**8月5日(火)：第7回 FJ 実行委員会 (椈の湖)**

この日は耳が痛くてどうしようもなかったもので、両方とも行かない。

**8月8日(金)：第8回 FJ 実行委員会 (椈の湖)**

早引きして医者へ行って、7時にフォークジャンボリーの実行委員会に、椈の湖

へ行ってきた。椈の湖は、すごく綺麗になって、見違えてしまった。地面がぐちゃぐちゃでも、もう明日、大勢集まってくれるかな？それが心配だ。それと、雨降らないでね。

### **8月9日(土)：FJ # 1 (椈の湖)：1日目**

今日はフォークジャンボリーのある日だ。朝からみんな休んで仕事をしとるのに、私だけ休まぬわけはないから、私も休んで、朝から椈の湖へ行って、作業をした。朝から雨が降ったりやんだり。開演ぎりぎりまで砂入れをした。白いズボンが赤土で茶色になった。

夕方6時に、田楽座の太鼓が合図で、ジャンボリーの幕開け。これから明け方まで、歌い通すのだ。私たちは、出演者の接待、食事の世話、後片付け、おにぎり握り、大忙しだった。岡林さん、高石さん、上條さん、五郎ちゃんたちに、そばで会えたのは良かったけど、歌は全然聴けなかった。

### **8月10日(日)：FJ # 1 (椈の湖)：2日目**

夜中に、上野青年会の売店へ行って、焼きそば作りとスパゲティ作りを手伝った。朝は、出演者の朝食の準備。昼からは後片付け。家へ帰れたのは、10日の夕方4時半。5時から、寝て、9時半に起きて、晩ご飯食べて、朝までぐっすり。まったく、よく眠れたわ。みんなも、家へ帰って、よく眠ったことだろう。

### **8月17日(日)：後片付けと反省会(岩根山荘[於：山口])**

朝8時30分駅前に集合して椈の湖へあと片づけ終わってから岩根山荘で反省会。中津川労音の人と話がはずんでしまった。

### **9月10日(水)：FJ実行委員会(反省会)：坂下の実行委員のみ**

フォークジャンボリーの、坂下地区実行委員会の反省会。一杯出た。

### **10月26日(日)：ソフトボール大会(椈の湖)：中津(実) vs 坂下(実) [坂下勝ち]**

坂下実行委員会対中津川労音のソフト試合。駅に一応集まって、女の子は私ひとりやった。とっても良い天気。椈の湖は、昨日雨が降ったから、グラウンドがべちゃべちゃ。みんな、泥だらけでやった。今日もズボン、まっくろ。椈の湖へ来て、よごれない事はまずない。

## 1970年

### 5月14日(木)：第1回FJ実行委員会(山口村青年団会議室[於：山口])：日時・内容

山口の青年クラブ館で、中津の人達と一緒にやった。フォークジャンボリーは、今年も8月に椈の湖広場で行うことに決定。

出演者も大勢。カルメンマキも交渉中だそう。あとは、去年のメンバー、尺八の人も二人、浅川マキという新人、高石、中川、岡林、高田、五つの赤い風船、顔見知りの人ばかり。10時半頃まで、内容や、役員など決めた。

### 5月18日(月)：第2回FJ実行委員会(山口村青年団会議室)：当面のスケジュール

坂下の公民館やと思っとたら、山口の青年クラブやった。7時からのを、7時半頃行ったけど、誰もいなかった。8時頃から始めた。チラシの内容を考えた。なかなかいいのが思いつかなくて、宿題になった。

### 6月3日(水)：第3回FJ実行委員会(坂下公民館)：総合的計画

フォークジャンボリー実行委員会。7時半やと思っとたら、7時からやった。でもまだ始まってなかった。だいたいのは決まった。ステージ、会費、チェコスロバキアの80人の人達も。ものすごく、スケールの大きなものになりそう。そういう人達の食事はどうするのだろう。又、私達がやるのかな。えらいぞ。今年も頑張ろう。

### 6月14日(日)：鎌入れ、式典(椈の湖)

1時に椈の湖へ行かならんけど、車が無いので友達に送ってもらった。3時半から鎌入れの式に入った。おみきも出た。ステージの位置や、今までの報告なんか、話し合って、5時に解散した。

### 6月23日(火)：第4回FJ実行委員会(坂下公民館)：事務的な計画

7時からやと思って行ったら、誰も来れへん。そうしたら、7時半だった。実行委員会の方は、だいぶ煮詰まってきた。マークも決定したし、マークのことで、ドラさん(=笠木透)と前野さん(=前野進)が喧嘩しちゃった。

### 6月25日(木)：第5回FJ実行委員会(近藤武典宅[於：中津川市柳町])：チラシ配り他

青年会の役員会があったもんで、実行委員会も、近藤先生(=近藤武典)の家であった。パンフレットの郵送。そっちに行きたかったけど、役員会に行かな、会長

が怒るから。

#### **6月28日(日)：作業始め(椈の湖)**

椈の湖へ作業。女子はQP(=山内満由美)と二人だけ。人数は少なかった。椈の湖で遊ぶ人は大勢いたけど。

#### **7月5日(日)：第6回FJ実行委員会(青年クラブ館)：作業日程**

実行委員会、連絡来るのが遅かったから、行けなかった。ごめんね安保さん(=安保洋勝)。

#### **7月12日(日)：作業(椈の湖)：倉庫作り、テント張り**

9時30分、坂下駅に集まって、フォークジャンボリーの作業に行った。倉庫を作ったり、テントを張ったり、くい割り、案内板作り、ものすごく、色々な仕事がある。でも、ジャンボリーのためだ、頑張るわ。苦しみの後には喜びが必ず来るものだ。実行委員会に行っていると、とても楽しい。

#### **7月18日(土)：第7回FJ実行委員会(坂下公民館)：出演者**

7時30分から公民館。なんか、もうすぐなのに、何にもやってないみたい。でも、これからの予定なんかを話し合った。

#### **7月19日(日)：作業(椈の湖)：女子ペンダント作り**

9時に駅へ集まって、椈の湖へ行った。女子は、付知へ行ってくれとのことで、QPと行って、ペンダント作り。流れ作業で、とっても楽しかった。

#### **7月26日(日)：作業(椈の湖)：女子ペンダント作り**

FJ作業、椈の湖広場。今日も又付知へペンダント作り。もう今日で、全部作ってしまわないと間に合わない。だからものすごくハリキッテやった。9時頃終わった。

#### **7月29日(水)：映画作成、話し決まる**

仕事終わってからQPちゃんから椈の湖へ作業に行こうとさそってくれたから行って来た。安保さんが一人でやっていたから行って良かった。

#### **7月30日(木)：作業(椈の湖)＊**

今日も仕事終わってから、椈の湖へ仕事しに行ってきた。

#### **8月1日(土)：作業(椈の湖)＊**

フォークジャンボリー作業。PM5時30分頃。中津の人たちも来て、明日、役割を決めるからという話。

## 8月2日(日):作業(権の湖):8月に入り連日、夜間作業

昼から、権の湖へフォークジャンボリーの準備と、砂入れ作業のため行った。もつとみんなと遊びたかったけど、ジャンボリーのためがまんした。(この日、クラス会が10時からあり途中で退席した [日記を書かれた原とし子さんによる注])

## 8月3日(月):作業(権の湖)\*

仕事終わってから、権の湖へ作業に行った。

## 8月4日(火):作業(権の湖)\*

今日も仕事終わって権の湖へ作業。もうすぐだっていうのに、準備することがたくさんある。六ちゃん(=稲熊六男)が、みんなやってくれるで、嬉しい、助かるって安保さんが言ってた。提灯や、カーテン、屋根などやるのがたくさんある。当日まで掛かっちゃう。

## 8月6日(木):作業(権の湖)\*

仕事終わって権の湖へ作業。いよいよ明後日、本番なのに、作業は出来てない。明日の晩は、みんな権の湖泊まり。

## 8月7日(金):作業(権の湖)+第8回FJ実行委員会(権の湖):前日

仕事は一切やらず、一杯飲めるゆとりでなんて言ってたけど、とてとても。今日からいよいよ権の湖泊まりで、明日いるものを袋に詰め込んで、迎えの車で行った。10時頃から、最後の実行委員会を舞台でやった。当日の役割なんかを決めた。私は出演者の接待係。

## 8月8日(土):FJ#2(権の湖):1日目

7時15分頃、広場についたら、みんなもう起きて仕事していた。総太郎さん(=山内総太郎)やQPは、竹切りに行っておらなんだ。みんな、今日から本番だから、張り切っちゃって、私も張り切っちゃった。堤防のくい打ち、提灯ぶら下げ。

9時には全員、場外へ出て、入場。入場した際、印のペンダントをぶら下げることが条件に入場。10時頃、岡林信康と吉田秀子さんが熱々の所を見せながら来場。その後、出演者ともお客様とも、わけのわからない人達がぞくぞく来た。実行委員会は、各係の位置につくことの合図で、受付を手伝っていたのをやめて、楽屋へ行った。

1時から、はしだのりひこの司会で、アマチュアの部が始まった。アマチュアは、私たちには関係なし。プロだけ。荷物の上げ下ろし、お茶、水、夜はホットのコー

ヒー。出演者達と近づけるから嬉しい。7時頃から五つの赤い風船、他の人で8時頃から、チェコスロバキアの踊り。荷物を運び終わったら、また運び、えらかった。チェコが終わると、フォーク歌手の人達、12時頃からは、岡林や浅川マキ、はしだのりひこは酔ってひどかった。歌だけはきちんと歌った。水飲ませたりしたら朝はピンピンして歌を聞いていた。夕べは眠れなかった。ねるひまなかった。

### **8月9日(日): FJ # 2 (権の湖): 2日目**

朝、着いた人達に水やったり、ご飯にみそ汁配って、色々仕事はあった。赤い鳥、ソルティシュガー、六文銭、杉田二郎と四億分の一だとか暑いと、喉が渇くから、ステージへ水もって行ったりがはずかしかった。だから六文銭だけしか持って行かなかった。ソルティシュガーも赤い鳥も終ってから楽屋で渡した。皆な、おいしいと言って飲んでくれた。うれしかった。もっと早くステージに持って行ってあげれば良かった。

終り頃、実行委員全員がステージにあがり、友よを歌った。なぜか涙が出て来た。ドラ兄のあいさつがとぎれとぎれになって、こっちまで泣けてきちゃった。バッヂや手ぬぐい、フォークレポートなんかを売って歩いた。それが終ると後片づけ。まず腹ごしらえに昼食を食べて四時迄昼寝。ぐっすりねむれたテントで。そしたら雨が降ってた。その中でごみ集めに電球やソケット取り、夜7時半頃、帰さしてもらった。家には3日ぶりで帰る。

### **8月10日(月): 後片付け (権の湖) \***

仕事で欠席

### **8月16日(日): 後片付け (権の湖)**

朝、権の湖へ行くつもりでいたけど、何の連絡もないから、家でぼけっとしていた。

### **8月22日(土): 反省会 (根の上山荘 [於: 中津川市])**

6時半に駅へ行って。宮さん (=宮川久) の車に、安保さんと三人乗っていった。安保さん、いつもの安保さんみたいじゃなかった。なにか荒れてるようだった。一時間ぐらいかかって山荘に着いた。なんと、山荘とは名ばかりで、私たちのところは、屋上にムシロを敷いて、そこでバーベキュー。寒いやら、蚊が食いつくやらで、こんなことならスラックスでよかった。坂下は、道ちゃん (=市脇

道子)と私、あと、中津の西田さん(=西田瑞穂)、友ちゃん(=園原友子)、東デパートの店員さん。女子は5人だけ。

もう、みんな、やけくそになって、めっちゃめっちゃな反省会だった。なんと、赤字が140何万とあるから、140何万とは、ひどい数字だわ。やけになる気持ちはわかるわ。0時頃、終わって帰ってきた。8ミリ映写を見せてもらった。メチャクチャというかズッコケ反省会だった。

#### **8月23日(日)：後片付け(樫の湖)**

後片付けに行かならんかもしれないけど、9時に起きたけど、おにぎり握って9時に駅へ行ったけど、誰も来なかったの、行かなかった。

#### **9月14日(月)：第9回FJ実行委員会(坂下公民館)**

フォークジャンボリー実行委員会に行くつもりでいたら、けんちゃん(=前田健策)が、田楽座の実行委員会に出てくれて言われたので、私は、実行委員会行ってない。反省会の報告は、手きびしい発言ばかり。来年はこういう事のないように。赤字は皆んなが少しづつ出したみたい。

#### **9月28日(月)：FJ記録試写会(坂下小学校)**

フォークジャンボリーの映画試写会、役場だったけど、小学校に変更になった。岡林も、マネージャーと一緒に来ていた。9時頃終わった。岡林さんたちは、中津の根の上山荘に泊まるから、行きたい人はどうぞということ。おそくなりそうだから行くのをやめた。

#### **10月17日(土)：第10回FJ実行委員会(青年クラブ館)**

実行委員会があった。斉藤さん(=斉藤茂)に労音の券を貰った。カルメン・マキと六文銭。レコードが出来たことや、この間試写会をやった映画の取り組みについてや、8ミリを見たりした。レコードを注文してきた。実行委員会はまけてくれるそうだから。2枚あったレコードを、あみだくじで貰おうなんて、あみだくじやったら、QPの所へいった。

#### **11月8日(日)：ソフトボール大会(樫の湖)：中津川(実)×坂下(実)**

10時に駅へ行って安保兄(=安保洋勝)の車で樫の湖へ。午前中は軽く運動程度。待てど暮らせど中津の人は来らへん。坂下の人でも6人だけ。これじゃあ、ソフトにならないから、テントを壊したり、まだ後片付けも残っていたから、片付けて。昼から、中津の人が来るかと思ったら、鉦ちゃん(=田中鉦三)だけ。だ

から、ソフトをやった。小さな子供も入れて、5時ごろ、帰ってきた。

**11月13日(金)\***

フォークジャンボリーの映画の券の集約。人数が集まらなかった。だから券も、何枚出たかわからへん。

**11月17日(火): FJ 記録映画上映 (青年クラブ館)**

フォークジャンボリー記録映画、『だからここへ来た』の上映日。券、あまり売れなかった。

**12月26日(土): 望年会 (高橋養鱈場 [於: 南木曾町田立])**

ジャンボリー実行委員会の忘年会。田立の高橋で6時半集合。マイクロバスで会場迄行った。

**1971年**

**3月18日(木): 第1回 FJ 実行委員会 (青年クラブ館): 日時会費等原案作成**

全日本ジャンボリーの実行委員会。やるかやらないかということで、討議が始まった。結局は、今年も樫の湖で、8月の第二土曜日に、やるということに決まった。

だから、これから頑張ろう。女の子、QPと私の二人だけ。去年も、中津からも男の人ばかり。西田さん来なかった。10時15分ごろまで、討論し合った。次回は、3月25日PM7時30分、山口の岩根山荘。

**3月25日(木): 第2回 FJ 実行委員会 (岩根山荘): キャッチフレーズ、役員構成**

フォークジャンボリー実行委員会。まず、キャッチフレーズを出し合うことになったが、シーンとなっちゃって、一杯飲まなあかんということになって、みんなから小銭をカンパし合って、お酒を沸かして飲んだ。そうしたら、出たわ出たわ、わんさか出た。

それから、主な役員を決めた。実行委員長、他の役員も決めた。私らは又、土方。これから又、樫の湖せんもんに行かんならん。真っ黒に日焼けしてしまう。今から楽しみだ。

**3月28日(日): 制作スタッフ会議 (笠木透宅 [於: 中津川市駒場]): チラシ、ポスター、会員証**

\*記述なし

**4月8日(木)：第3回FJ実行委員会(やすらぎ荘|於：坂下町松源地)：設営スタッフ、作業分担、計画立案**

フォークジャンボリー実行委員会、7時半からだった。

**4月21日(水)：第4回FJ実行委員会(やすらぎ荘)：資材、交通、原案作り**

\*記述なし

**4月25日(日)：花見、ソフトボール大会(椈の湖)：中津(実) 対坂下(実)**

椈の湖へ、11時に行ったけど、誰もおらへん。中津の人も来らへん。11時に試合開始なのに、いい加減なもんだ。11時半頃から、やり始めた。中津のメンバーがおらへんから、私は中津に入れられた。笠木さんのピンチランナーで走ってばかり。打たしてくれたけど、当たらんんだ。三戦くらいやった。昼前に1試合、坂下対中津川。昼食をすませてまた、2試合。坂下対中津川。6時頃までやった。

**5月2日(日)：作業(椈の湖)：倉庫、小屋作り準備**

2時に椈の湖へ言ったら多勢な人、わらび列車っていうのが、バス四台で、子供の日にちなんで来た。子供の日も兼ねて、なんか、部落の人達が、各部落から遊びに来るとし。矢淵<sup>やぶち</sup>、乙坂<sup>おとさか</sup>、下外<sup>しもそで</sup>、松源地<sup>しょうげんじ</sup>。それにアーチェリー場がオープンしたし、ほんとにすごい人たちだった。

奈良から、学生が一人、手伝いに来ていた。倉庫を、どこにするか、色々案を決めて歩いた。3時半頃、斉藤さんとこへ、倉庫を借りに行った。大きいネジ一本で組み立てられる。みんなでバラバラに壊して椈の湖まで運んだ。建前は、9日の日にやることにした。一応建前と名が付くから、餅投げもするそうだ。

**5月9日(日)：作業(椈の湖)：資材倉庫、小屋**

PM1:00、FJ作業に椈の湖へ。倉庫(資材を入れる所)と、宿泊室(県外から、ジャンボリーのために手伝いに来てくれる人の寝る所)の二軒を、夕方までに建てた。東京と関西の音楽舎の人が来た。建前で、10個餅を拾った。あと、たき木を拾ってきて、焼いて食べた。

**5月12日(水)：金田氏<sup>かねだ</sup>入居(椈の湖)**

\*記述なし

**5月16日(日)：作業(椈の湖)：イス運び、坂下小より**

1時に迎えに来てもらって椈の湖へ行ったら坂下小学校へ椅子と、くい運び。えなかった。

**5月17日(月):第5回FJ実行委員会(アーチェリーレンジロッジ[於:坂下町上外]):  
出演者、計画**

7時半から、FJ実行委員会アーチェリーロッジにて。

**5月23日(日):ソフトボール大会(椈の湖):中津(実)、坂下(実)、名古屋(実)、  
創芸社**

青年会のハイキングが終わってから登っていったら、ソフトボールはもう終わっていた。大勢集まっていた。名古屋労音の人、音楽舎の人、創芸社の人、女の人もたくさんいた。中津ではみずほさん(=西田瑞穂)が来ていた。

**5月30日(日):作業(椈の湖):竹切り**

1時に椈の湖へ行き安保兄のトラックで、竹を切りに行った。一軒の家は細い竹、もう一軒は太い竹を切ってきた。

東京から女の子が1人。男の子が3人、手伝いに来ていた。椈の湖で泊まっている。金田くん(=金田一東)と箕くん(=箕浦淳一)は四国へキャンペーンに行っていなかった。東京の女の子、群馬県の人、よく働いてくれる。

**6月6日(日):作業(椈の湖)**

\*記述なし

**6月8日(火):第6回FJ実行委員会(坂下公民館):装飾関係、宣伝物ペンダント、  
宣伝分担**

7時半から公民館で、フォークジャンボリー実行委員会。研修室。大勢な人。ペンダントやら、のぼりの案が出来てきて、かっこうのいいやつで記念に残りそうだ。

**6月13日(日):作業(椈の湖):階段作り**

1時頃に行った椈の湖の作業は、階段作りだった。安保兄が、付知川を下るゴムボードを作ってきていたから、その進水式をやった。順調やったけど、瀨瀨さん(=瀨瀨頼幸)が乗ったら、ひっくり返ってしまった。椈の湖へ落ち込んだ。浅い所だったから、よかったわ。

**6月20日(日):作業(椈の湖):竹切りと草刈り**

椈の湖へ行った。去年来ていた端田君(=不詳)が今年も来ていた。私を憶えていてくれた。草を少し刈って、みんなで清幸君(=安江清幸)の家へ竹切りに行った。少し切っただけで中止になっちゃった。ものすごい雨で、この次だそう。

みんなびしょ濡れになっちゃった。

**6月23日(水)：第7回FJ実行委員会(近藤武典宅)**

中津、中津の武典先生の所で、フォークムーブメントの打ち合わせ会。そこで、ジャンボリーの、のぼりを縫うのを頼まれてしまった。大きい三枚、小さいの四枚。えらいぞ、これは。うちへ11時15分ごろ帰ってきた。

**7月1日(木)＊**

もうジャンボリーまであと1ヶ月、ステージなんかも全然できてないが、大丈夫かな、心配。

**7月4日(日)：作業(椈の湖)**

1時に椈の湖。中津の人たちが、もう来て、作業をしていた。早いねって言ったら、叱られた。7月からは、朝10時からやぞって言われた。仕事ばかりでえらかった。

**7月11日(日)：作業(椈の湖)**

10時半に椈の湖へ上っていった。昼休みに頼ニイ(=瀬瀬頼幸)と、俊広君(=吉村俊広)が、付知川を下った、だちかん号に乗せてもらった。だちかん号に3人乗って椈の湖を一周した。見てる人はヒヤヒヤだったそうだ。私は楽しかったけど。

**7月12日(月)：第8回FJ実行委員会(坂下公民館)：今後作業スケジュール**

7時からフォークジャンボリー実行委員会。半ごろになって、みんな集まりだした。太田兄(=太田誠)の8ミリを見せてもらった。おもちゃ作りをしてる所が。その後、実行委員会に入った。作業日程やら、計画等を話し合った。

**7月14日(水)：作業 夜(椈の湖)：やぐら作り**

5時に椈の湖へ行ってちょこっとだけ作業して6時半に帰って来た。

**7月15日(木)：作業(椈の湖)**

＊記述なし

**7月18日(日)：作業(椈の湖)：パネル運び**

椈の湖へ4時頃着いて、雨がやんだら苗木迄パネル運びに行った。

**7月19日(月)：第9回FJ実行委員会(坂下公民館)：当日の役割割り**

7時半から公民館で。当日の役割を決めた。私はまた楽屋係になった。

**7月25日(日)：作業(椈の湖)：石、砂運び、メインステージ作り**

朝は9時半ごろ、車が来たから椈の湖へ上っていった。時間どおり10時に椈の

湖へ着いたけど、仕事があらへなんだから、少し遊んだ。11時ごろに、川上川へ石を拾いに。QP や、お富（＝山内富子）、お京（＝加藤京子）、もう君（＝曾我太雄）とで降りてきた。雨がぼちよぼちよ降る中で、安保さんのトラックに二分の一位積んで行った。セメントに入れる石、メインステージを作ってたから、その後、去年の、のぼりの洗濯。水がものすごく冷たかった。それが済んでから、仕事がなくなった。

昼ご飯済んで、また、下まで材木を運びにきた。坂下木材の市場まで、山内さん（＝山内總太郎）と私とお京。90何本、いっぺんに積んだ。びたびたになったもんで、着替えに寄って、また行った。女性の仕事がなく、夕方近くから、またものすごい雨降りになって、帰った。

**7月26日（月）：第10回FJ実行委員会（樺の木公会堂 [ 於：坂下町 ]）：当日役割り、作業予定**

樺の木の公会堂で、7時30分から。当日の係の決まっていなかった所を決めたり、作業の事やらを、11時半頃迄かかって決めた。家へ着いたら12時だった。

**7月27日（火）：交通関係打合せ（坂下町役場）：町役場、警察、交安協が出席、夜間作業**

\*記述なし

**7月29日（木）：作業（樺の湖）\***

6時ごろ、六ちゃんから電話。これから樺の湖へ行くから道路まで出ておれとのこと。樺の湖へ行ったら、ドラさん、安保さん、黒テントの人。安保さんがパネルを持ちに行っておるすに、遊びに使う船に、4人で乗って遊んでおった。樺の湖の真ん中は、とっても涼しかった。パネルをおろして、ステージで話をして帰ってきた。

梶田君（＝不詳）や長崎君（＝不詳）たちは、昔のことで、責任をとって出て行ってしまった。男ばかりのところに、女の子が一緒にいることはと、町議で取り上げられてしまって、安保さんも困っていた。こんな話になると、私も樺の湖へ行きにくくなっちゃう。飛行機が落ちた。空中で自衛隊機と衝突した。自衛隊の人はパラシュートで降りて助かっていた。

**7月30日（金）：作業（樺の湖）\***

夕方上っていったけど仕事がなかったから小屋で話をして帰ってきた。

**7月31日(土)：作業(椈の湖)＊**

椈の湖へ作業。終わってからまえだ屋で焼きそばを食べて帰って来た。

**8月1日(日)：作業(椈の湖)**

8月からは10時から集合になった。10時から椈の湖へ作業、ちっとも仕事がかからないみたい。こんなんでも出来るのかななんて思っちゃう。

**8月2日(月)：第11回FJ実行委員会(アーチェリーレンジロッジ)**

それぞれの係に集まって決めた。私たちは楽屋と食料とこみで、いろいろ決めた。交通の人たちは交通、そうやって、順番に、集まって、決めた。

**8月3日(火)：作業(椈の湖)：サーチライト、サブステージ作り**

6時頃椈の湖へ行った。

**8月4日(水)：作業(椈の湖)＊**

竹を出す仕事をやりに行った。もうすぐだから、作業をしても、活気にあふれている。田口さん(=田口正和)や青木さん(=青木和正)なども来ていた。青木さんが、昨日からもう休みを取って仕事に来ている。交告さんのところまで、竹を出す仕事をやりに行った。

**8月5日(木)：作業(椈の湖)＊**

椈の湖は、明日、前夜祭を迎えるため、ものすごく活気に満ちている。舞台も、大分出来たし、サブステージの方も、二つに減らして、だいたい出来た。本当に、つい最近まで、これで出来るのやろうかと思ったもんだけど、よく頑張ったわ。

**8月6日(金)：作業(椈の湖)：前日＊**

朝、椈の湖へ上っていく車がなくて、清幸君に頼んで、10時ごろ上っていった。雨がぼちよぼちよ降って、付知からも手伝いに来てくれていた。トラックがなくて、私たちの荷物を運んでもらえず夜になっちゃった。

だから、耕運機で荷物を運んだ。清幸君のところから、お京の家、西方寺を通って、QPの家、そこから私の家から椈の湖へ。長坂を何回も通ったけど、耕運機では初めてだった。ジャンボリーのお客さんが、大勢歩いて上っていった。乗せてやりたいけど、トラックじゃないから。それに、急いでいたから、椈の湖へ行ったら、肉がまだ来てないって言われて、それからまたすぐ下まで、肉取りに行って、前田屋へ頼んで、実行委員会、メインステージで腕章を配ってもらい、班ごとに集まって、打ち合わせをした。

私達は、メインステージ。田口さん、鉦ちゃんたちと一緒に。実行委員会を終わってから、また作業。もう君と、交告さん(=緋瀬頼幸)のところへ餅米を洗いにいった。おばさんにも手伝ってもらって洗ってきた。12時になったから帰ってきた。榎の湖へ来たら、まだ松井さん(=松井隆康) 安保さん山内さん達、作業をしていた。明日は8時集合だから、私たちは、もう君の車で帰って来た。明日から3日間頑張ろう。

### **8月7日(土): FJ # 3 (榎の湖): 1日目**

8時に集合やったけれども、迎えにきてくれる人が遅かったため、9時ごろになった。もう相当な人が集まっていた。バスもたくさん出て、歩いて来る人や、10時に全員外へ出て、11時頃入場開始。それ前に、餅つきや麦茶、食料の仕事をやって、餅つきは入場者にも手伝ってもらった。

12時からメインでは音合わせ。サブでは、開始。私達はメインだから、4時から。それまで受付や、色々な所を手伝っていた。お昼ご飯を配って歩いたり、出店を手伝ったり。

4時からメインステージへ行って、出演者の接待をやっていた。2時まで楽屋にいて、それから仕事なし。この日は、あと、メインステージで、出演者たちが寝たため、サブは朝までずっとやりっぱなし。だから、夜食を配ったりして、寝たのは1時半くらい。寝る所がなかったから、鉦ちゃんの車へ行って寝た。

### **8月8日(日): FJ # 3 (榎の湖): 2日目**

朝ご飯の支度せんらんから、起こされて、出演者の食事を配って、受付の所で手伝っていた。昨日、榎の湖で泳いで沈んじゃった子を、今日又消防の人達が出て探していた。お昼ごろ、水死体で見つけた。泳いではいけないというのに、泳いでそれもあまり泳ぎのできる子じゃなかったそう。上は裸で、下はジーパン。それに、心臓が弱いという、まるで自殺みたいだ。両親も来て、笠木さんも何も言えなくて、うろろろしてただけ。わかるような気がする。

4時から、メインステージ。それまで時間があつたけど、水をくみに行ったり麦茶作ったり、寝る暇もなかった。開始前に、ステージから餅投げをやり、面白かった。北山修が来ていて、ウイスキーを飲んでばかりいた。はしだのりひこと、ウイスキーの取り合いっこをしたり、メロメロに酔っちゃってすごかった。

8時頃、サブステージが乗りだし、メインでも乗り始めた。岡林の頃には、空

き缶やら、ビンなどが飛んできたり、花火をステージに投げ込まれたり、ステージを、反ジャンボリー派の人に乗っ取られてしまった。それから、ドラさんと話し合い。

もう怖い、なんか変な気持ち。頭に来ちゃうし、お金を取られたら大変だし、みんなで何気なく運んだりして、隠して、この最後の日は、全然メインステージは使えなかった。もう私は眠くて眠くて、チヒロ君（＝加藤千博）の車で、朝まで知らずに寝ていた。

### **8月9日（月）：FJ # 3（樅の湖）：3日目**

そしたら、ジャンボリーは、終わってしまっていた。なんか知らない間に終わってしまったという感じ。

それから、実行委員の食事に大わらわ。それが済んでから、一眠りさせてもらった。私たちの荷物を山田さん（＝山田久志）に運んでもらって、後片付け。

4時ごろから、上のステージのそばで、我夢土下座が気晴らしで歌を歌っていたから、それに加わり、一騒ぎした。そしたら今までのくたびれも、一気にどっかへ飛んでいってしまった。山ちゃん（＝山本正博）や、太田兄は、声をカラカラにしてまで、歌っていた。ものすごく可哀想なくらいだった。

本当は、メインステージでやるはずなのに、こんなところでしか歌えず、毎年ステージで歌うつもりで、楽器まで運んでくるのに、こんなこと、誰にも言えず、本当に可哀想だった。家へ8時半ごろ、帰らせてもらった。

### **8月10日（火）：作業（樅の湖）：後片付け、テント、空ビン**

今日まで休み取ってあったから、昼まで寝て、昼からチヒロ君の車で、樅の湖へ、後片付けを手伝いに行った。中津からも、ドラさん、田口さん、鉦ちゃんが来ていた。ゴミの方は、本職に頼んだから、テントやら、借りたものやら、空ビンなどを片付けた。

### **8月15日（日）：後片付け（樅の湖）：パネル等**

頼兄（＝瀬瀬頼幸）が迎えに来てくれるっていう電話を待ったけど、ちょっとも来なんでもんで、行けずにおったら、俊広君が来て、樅の湖、人手が足りないから、これから行こうっていうことで、すぐ用意して、樅の湖へ行った。頼兄もチヒロ兄（＝加藤千博）も来て作業をやった。樅の湖では、空き缶の片付け。パネルや角材（パタカク）を、かやしにいたりした。

## 8月29日(日):後片付け(樅の湖):小屋片付け

青年会の、カーブミラーの掃除があって、それが済んでから、樅の湖へ集まって、ソフトボール大会。

昼休みにジャンボリーの小屋を壊すのを手伝った。ドラさんと田口さんが来てたから、安保兄がご飯を食べにいったる間に、めちゃくちゃに壊してしまった。2時から4時までソフトをやって。またジャンボリーのほうを6時まで手伝って帰ってきた。

ジャンボリーの反省会が9月の11日、12日に、一晩泊まりでやるそう。貸し切りバスで、木曽福島の駒ノ湯温泉で。土曜日の3時ごろ出発して。まだ、はっきり決まってないみたいだけど。楽しいナー。又中津の人達とバカさわぎが出来る。

## 9月11日(土):反省会(駒の湯[長野県木曽郡木曽町福島]):1日目

ジャンボリーの反省会。中津の人は、1時半に中津川駅前に集合。坂下の人は、2時に坂下駅前に集合。松井さんがなかなか来ず、待っていて、30分遅れてしまった。弥栄橋で松井さんを乗せて出発。いつも見慣れた顔ばかり。すごくいいバスやったし、席も、自分の好きなところに座れた。みんなで、歌うったりして騒いで行った。

駒の湯へ行く前に、くるまやのソバを、全員食べて、それから駒の湯温泉へ。4時か5時ごろ着いた。それから少し、連絡なんかをして、自由行動になった。6時までは自由。6時からミーティングを30分やって、6時半から宴会。ミーティングでは、会計報告やら、今日、こうして一杯飲めるお金のことなんかや、フィールドフォークムーブメントのことやら、話して飲み始めた。

## 9月12日(日):反省会(駒の湯):2日目

朝8時半ごろ起きた。朝ご飯、お酒を持ってこられたけど、もう飲まなかった。国ちゃん(=吉村国昭)達は、ご飯に酒をかけて、これぞ本当のさけ茶漬けなんて食べていた。

旅館を10時に出発、松本城へ。松本城で記念写真を撮ると言って並んだ。普通はチーズと言って写すが、実行委員は型破りな人達ばかりだからバターと言って一枚撮って、もう一枚は、バターをもじって馬鹿一と言って写した。みんなして、でっかい声を出すので、見物人の人が、じろじろ見た。ここで解散。2時

にバスに集合。それまで、自由。松本の町を見たり土産物屋に入ったりして、2時にバスに乗って、塩尻のぶどう園へ。そこで、ぶどうを食べ放題。

坂下へ5時半に着いた。バスの中では、みんな寝ちゃっていたけど、上松のへんから起きて、歌を歌ったりしてきた。また、中津の人は新しい歌を作っていた。ええじゃないか節と、付知の子守歌、これを歌った。家に帰るには早い時間だったので松井さんのおごりで、やまにの旅館で一杯飲んだ。10時頃解散した。

**11月16日(火)：第12回FJ実行委員会(坂下公民館)：会計報告、FJ報告集**

一番最初に、笠木さんに、フォークとは民衆だという講義みたいな話を聞いて、これからの方針、ジャンボリーの報告(会計)、いろいろ話し合った。

**11月18日(木)：第13回FJ実行委員会(安保宅[於：中津川市下野])：報告集編集会議**

18日に、安保さんの家で編集委員会。三年間、ジャンボリーをやってきた報告集を作るため。

チヒロ君に乗せていってもらった。あとから、山ちゃん、ドラさん、田口さん。鉦ちゃんは左官の寄り合いがあって来れないという事。太田兄、山内さん。

ジャンボリーの本を作るため、いろいろ分けた。私たちのところへは、都道府県別の人数、ジャンボリーの時に受け取った半券に基づいて調べるやつ。本当は、太田兄の仕事だったけど、あまりにも太田兄、たくさん仕事があって、かわいそうだったから、私が手伝うことにした。12時すぎまでいた。

**11月19日(金)：入場券の半券整理作業(小池宅[於：坂下町])\***

太田兄が夕方、ジャンボリーの半券を持ってきてくれた。だから、少しずつ整理にあたったが、すごい。三万人ぐらい入っているから、ちょっと悲しくなった。夜、QPから電話があったから、助けに来てヨって頼んだ。二人で、やる所に他の用事で家迄来た頼兄にも手伝ってもらって10時半迄やった。

**11月20日(土)：入場券の半券整理作業(小池宅)\***

今日もQPと入場券の整理をした。あまりにも沢山あるからQPに明日日曜日やから半分家へ持って行ってもらった。

**11月21日(日)：入場券の半券整理作業(小池宅)\***

朝から入場券の整理。姉にも手伝ってもらって、やっと全部調べ上げた。郡や町村で、書いてあるところがわからへん。お父ちゃんに聞きながらやった。

**11月30日(火)：FJ報告集の原稿締め切り日\***

フォークジャンボリーの報告集の原稿締め切り日。誰も集めに来ない。

**12月2日(木) \***

第二回編集委員会が安保さん宅であるはずだったが中止になった。

**12月4日(土)：FJ報告集所収予定の座談会(更科：[於：中津川市]) \***

FJ座談会の記録場所が変更になり中津の「更科」でやった。晩ご飯も出て話をしてるのを書いていくのはなんと出来ない事。皆んな早口でしゃべるから11時頃迄かかった。

**12月5日(日) ソフトボール大会(椈の湖)：中津(実)、坂下(実)、名古屋労音**

ドラさんにひろってもらって行った。名古屋労音と中津川、坂下実行委員会との対抗ソフトボール大会。女子は坂下2名、名古屋1名。ものすごいのを打った者は一塁でも三塁でも、どっちでも行っても良いという我夢土下座ルールのやり方。私も三塁へ走って行って、一塁からホームインした。生まれて始めてこんなソフトボールは、でも、とても楽しかった。

**12月12日(日)：FJ報告集関連の作業(太田誠宅[於：中津川市落合]) \***

9時か10時までに、山内さんが迎えに来てくれることになっているのに、ちっとも来らへん。10時15分に来て、QPと太田兄の家へ行った。テープを聴いて、まとめていく仕事。10時まで掛かってやったけど、ちょっとしか出来ない。昼ご飯、夜ご飯、夜食と、三回も出してくれた。

**日記抜粋作業を行った皆様(敬称略)、日時、場所**

原とし子：2022年5月24日(火)、6月20日(月)、7月29日(金)、

8月22日(月)、9月26日(月)、2023年1月23日(月)。

なお、時間は全日13時30分～17時。於：フォークジャンボリー記念館(岐阜県中津川市坂下)。録音記録はすべて活字化し、録音と活字おこした文書はすべて筆者保存。

安保洋勝：同上。ただし9月を除く。

早川和子：同上。

松井隆康：同上。ただし5月を除く。

山田晴通(JSPS科研費JP20K00219の研究代表者)：同上。ただし6月を除く。

## 謝辞

「小池とし子日記」の抜粋、公開にご協力くださった原とし子さん、日記の抜粋作業にご協力くださった安保洋勝さん、松井隆康さん、早川和子さん、ここに記して御礼申し上げます。

こうした流れに至る前に中津川労音や全日本フォークジャンボリー実行委員の当時の話を聞かせてくださった田中鉦三さん、田口正和さん、そして出演者のチェコスロバキア社会主義共和国から来日したスルク大舞踊合唱団を泊めた旅館白木屋を運営していた西尾英昭さん、西尾承子さん、ここに記して御礼申し上げます。

重ねまして、皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 付記

本研究は、JSPS 科研費 JP20K00219 の助成を受けました。

## 注

<sup>1</sup> 全日本フォークジャンボリーの概観については、東谷護「全日本フォークジャンボリーにみる「プロ主導」と「アマチュア主導」の差異」東谷護（編著）『復刻 資料「中津川労音」－1960年代における地域の文化実践の足跡を辿る－』（風媒社、2021年）315-335頁、を一部、加筆修正した。

<sup>2</sup> 昭和45年（1970年）の国勢調査によれば、坂下町の人口は6,030人。<https://www.city.nakatsugawa.lg.jp/soshikikarasagasu/kohokochoka/5/1037.html>（中津川市役所中津川市の人口（国勢調査））最終アクセス日：2023年2月5日。

<sup>3</sup> 「小池とし子日記」によれば、1971年11月18日、19日、20日、21日に第3回の入場券の半券を集計しているため、観客動員数の正確な数がわかっているはずなのだが、全日本フォークジャンボリー実行委員会側にその記録が残されていない。目下、その記録がどこかに埋もれていないか、当時の関係者に探してもらっているのが現状である。

<sup>4</sup> 現物をスキャンしたPDFは筆者所蔵。

<sup>5</sup> 「小池とし子日記」抜粋の方法に示した日記を読み上げてもう他に、本稿の資料1を原とし子さんに校正していただいた折りに、「私がFJにかかわった最初」という時系列にまとめたメモを資料とした。なお、事実確認としての資料批判は筆者の東谷が行った。中津

川労音の例会開催日、開催場所については、東谷護（編著）『復刻 資料「中津川労音」－1960年代における地域の文化実践の足跡を辿る－』（風媒社、2021年）を参照した。

<sup>6</sup>全日本フォークジャンボリー開催当時に、地元の若者たちによる手作りであったことを記した新聞はない。記したのは雑誌だが、扱いは二つに大別できる。一つは全日本フォークジャンボリー事務局の笠木透執筆による記事を掲載したものである（『うたうたうた フォークリポート』Vol.8,1969年11月号 ,pp.12-13、『ニューミュージックマガジン』1970年11月号 ,p.33、）。もう一つは取材に基づいたものである（『新譜ジャーナル』1970年10月号 ,p.17[笠木透への取材]、『週刊明星』1971年8月22日号 ,p.214[安保洋勝への取材]、『毎日グラフ』(1971年9月5日号 ,p.66[笠木透への取材]）、『週刊ビルボード・ジャパン/ミュージック・ラボ』（1971年11月21日号 ,p.27[笠木透への取材]）。



資料2 抜粋元の「小池とし子日記」の表紙

(2022年5月24日、撮影：東谷護)



資料3 抜粋作業中の原とし子さん（左）と松井隆康さん（右）

（2022年7月29日、撮影：山田晴通）



資料4 抜粋作業：松井隆康さん（右前）、原とし子さん（右奥）

早川和子さん（中央奥）、安保洋勝さん（左奥）、筆者（左前）

（2022年7月29日、撮影：山田晴通）

## 参考文献

- 岐阜県 2003『岐阜県史：通史編 続・現代』岐阜県.
- 近藤武典 1977『近藤武典集』近藤愛子発行 [私家版].
- 坂下小史編集委員会 1991『坂下小史』岐阜県恵那郡坂下町.
- 坂下町町史編纂委員会 2005『坂下町史』岐阜県恵那郡坂下町教育委員会.
- 東谷護 2021「全日本フォークジャンボリーにみる「プロ主導」と「アマチュア主導」の差異」東谷護（編著）『復刻 資料「中津川労音」－ 1960年代における地域の文化実践の足跡を辿る－』風媒社, pp.311-330.
- 東谷護（編著）2021『復刻 資料「中津川労音」－ 1960年代における地域の文化実践の足跡を辿る－』風媒社.

## 雑誌

- 『うたうたうた フォークリポート』 Vol.8,1969年11月号, pp.12-13.
- 『週刊ビルボード・ジャパン／ミュージック・ラボ』 1971年11月21日号, p.27.
- 『週刊明星』 1971年8月22日, p.214.
- 『新譜ジャーナル』 1970年10月号, p.17.
- 『ニューミュージックマガジン』 1970年11月号, p.33.
- 『毎日グラフ』 1971年9月5日, p.66.

## ウェブサイト

- <https://www.city.nakatsugawa.lg.jp/soshikikarasagasu/kohokochoka/5/1037.html>  
(中津川市役所中津川市の人口(国勢調査)) 最終アクセス日: 2023年2月5日.